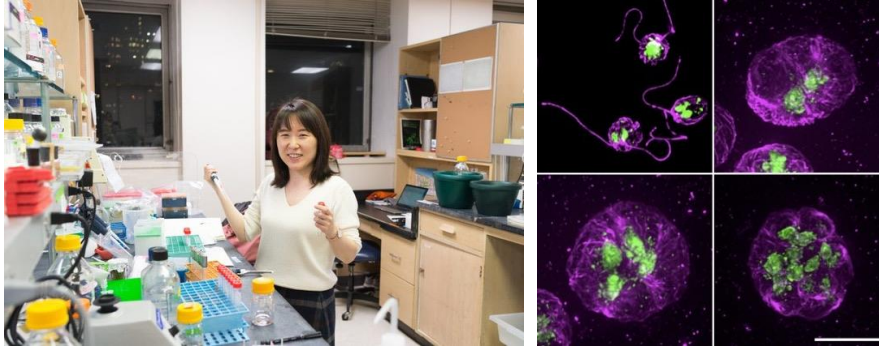


DNA 複製変異体による 緑藻クラミドモナス細胞周期調節の解析



植木紀子博士

ニューヨーク市立大学ブルックリン校 上級研究員

2018年9月11日（火）16:00~17:30

R1棟2階 第三会議室

植木博士は、緑藻クラミドモナスやボルボックスを用いて、光反応行動の分子細胞生物学的な解析で多くの業績を挙げられてきました。昨年から Brooklyn College の Amy Ikui 博士の研究室に移り、Rockefeller Univ.の Fred Cross 博士との共同研究で緑藻クラミドモナスにおける細胞周期調節機構の研究に従事されています。今回のセミナーでは、Cross Lab で単離された細胞周期変異体群(Tulin and Cross, 2014; Breker et al., 2018)から得られた pre-RC 遺伝子 (*ORC1*, *MCM4*, *MCM6*, *MCM7*, *CDC6*)、pre-IC 遺伝子 (*CDC45*, *TOPBP1*, *RECQ4*) の変異体の解析について、先だって行われた第18回国際クラミドモナス分子細胞生物学会議でご発表された内容を中心にお話しいただきます。藻類を材料とすることで分かった、真核生物の細胞周期調節機構の普遍性と多様性に関する興味深いお話をいただく予定です。

連絡先：科学技術創成研究院 化学生命科学研究所 若林憲一（内 5235）